

読書の小径

こみち

No.67

昭和という時代

市図書館 ☎551253

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※ が休館日です

開館時間

火～金曜日……………10:00～19:00
土・日曜日、祝・休…10:00～17:00

※図書館のご利用は無料です

平成になって20年、ここ数年ブームといえるほど「昭和」が注目を集めています。懐かしさとともに、環境問題の面からの見直しもあります。

かねてからある」という著者が、小説、テレビドラマ、映画を読み込み、そこに描かれた「家族」を切り口として、戦前から戦後への推移を追いつつながら、「昭和」という時代を見ようと試みます。第一部では、向田邦子『父の詫言状』と、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』を通して、戦前の家族とその時代のありようを見つめ、第二部では、幸田文の『流れる』を中心とした諸作品の中に昭和戦後の姿を探ります。第三部では、昭和末のいわゆるバブル期と呼ばれた時代に作られたテレビド

ラマ、「金曜日の妻たちへ」や「男女7人夏物語」「男女7人秋物語」などの鎌田敏夫作品を題材として取り上げています。

昭和にまつわる随筆を集めた、赤瀬川原平『昭和の玉手箱』。本書に出てくるものは、蓄音機や街頭テレビといった、今ではあまり見掛けなくなつたものから、インスタントラーメン、ジープ、ラジオなど、今でも毎日の生活になじみのあるものまで。新しいものがたくさん出てきた時代の興奮と、過ぎ去つていった時代への懐かしさに溢れています。

へチマ、湯たんぽ、打ち水ー昭和30年代以前には、ごく当たり前に使われていた「もの」や暮らしの中の工夫。市橋芳則『昭和に学ぶエコ生活ー日本らしさにヒントを探るー』は、地球環境に優しい暮らし方を昭和の時代に再発見していく一冊です。

関川夏央『家族の昭和』

「文芸表現を『歴史』として読み解きたい」という希望が、

「文芸表現を『歴史』として読み解きたい」という希望が、



12月

催し物だより

陶史の森 ネイチャーセンター ☎595144

楽しい絵手紙教室

日時 12月7日(日)

午前9時～11時30分

(雨天実施)

内容 自然を題材にして絵手紙を作る

対象 家族・一般

※事前に申し込みが必要

バードウォッチング

日時 12月21日(日)

午前9時～11時30分

(雨天中止)

内容 冬の野鳥観察

対象 家族・一般

★陶史の森の催しは、お一人でも参加できます。ただし、低学年児童は、親子で参加ください。

お願い 陶史の森は、動植物を保護しています。山野草やミズゴケなどを絶対に採らないでください。また、陶史の森およびせせらぎ公園へのペットの立ち入りはご遠慮ください。



ツグミ

まゆぶち、胸にまだら模様。

秋に飛来。

小走りに移動しては立ち止まり、

地上の虫やミミズを食べる。

鳴き声は「クィクィ、キューキュー」。

驚くと「キョキョキョツ」と

けたたましく鳴く。

